

# 公的研究費の不正使用等の防止 に関する取組の状況について

平成18年7月26日

科学技術政策担当大臣  
総合科学技術会議有識者議員

# 1. 公的研究費の不正使用問題

今回の早稲田大学の事案を含めた  
研究者による公的研究費の不正使用



科学技術に対する国民の信頼への背信行為

## 不正事例の起きる原因・背景

- 研究者の意識が希薄。研究費使用ルールを理解不足
- 研究機関のチェック体制の不備
- ：

## これまでの対応

- 配分機関：研究費返還命令、重複・集中排除のための情報共有化と応募資格制限（H17.9、全競争的資金で申し合わせ）など
- 研究機関：機関による経費管理、内部監査、懲戒処分など



## 政府、配分機関、研究機関による取組強化の必要性

- ルールの明確化・遵守や研究者のモラルの向上
- 機関管理の徹底（研究者個人による不正の誘発防止）など

## 2. 今回の事案への対応と今後の取組

### 関係府省等への要請(6月29日)

- 早稲田大学の事案の全容解明、発生原因等の報告 → 文部科学省
- 公的研究費の適切な使用を一層徹底するための方策の検討

文部科学省等関係府省における検討

各府省・関係機関等が今後取り組むべき  
**共通的な指針**のとりまとめ(8月末まで)

関係府省・配分機関に  
おける取組

研究機関に  
おける取組

総合科学技術会議としてフォローアップ

## 2. 今回の事案への対応と今後の取組

### 共通的な指針に盛り込む事項例(検討中)

#### 関係府省・配分機関

- ルール作りとその徹底、研究機関の責任の明確化
- 研究費の重複・集中の排除の徹底(データベースの整備)

#### 研究機関

- 使用ルール作りとその徹底、研究者のモラルの向上
- 研究費の管理・監査体制の整備
- 不正事案の調査・報告体制(内部通報を含む)

#### 留意事項(例)

- *研究活動の推進が最終的な目的*
- *研究者個人の責任と研究機関の責任を区別*

引き続き、競争的資金制度改革に取り組む。